

令和2年度 『光寿会事業計画』

① 経営を念頭に置きながら福祉的役割を再認識します！

人員不足…サービスの一部縮小を余儀なくされている中で、入居や利用を心待ちにしている方々がいる事、その方々のサービスご利用により、私たち職員の仕事が与えて頂けます。経営と現場の両面を捉えて進みましょう。

【利用される方がある = 私たちの役割が与えられる効果】

② 『安楽な姿勢で食事できる喜び』を探求します！

昨秋に研修を経て少しずつ実践してきた介護技術。ベッド上でも車いすでも椅子でもどこでも使える端巻タオルを駆使しながらの安楽な姿勢の確保を探求します。『安楽な姿勢＝お年寄りの柔和な笑顔＝職員の喜び』へ…。

【食事が量が増える＝健康＝安楽な姿勢へと繋がる効果】

③ 『ゆったり』暮らすお手伝い（＝介護）をします！

「脱・早く業務をこなす介護」のため取組んできた個別ケア。永遠のテーマであるこの課題を諦めず取り組んでいきます。一日の暮らし、排泄介助、食事介助、入浴介助、そしてヘルプのあり方等、検証し一歩ずつ変えましょう。

【お年寄り目線のゆったりとした暮らしを継続する効果】

④ 工夫と助け合いを通じてヘルシーな職場作りをします！

「働き方改革」実現に向けて、全ての職員が気持ち良く休めるように、「カレーの日」や「レトルトの日」等の工夫と助け合いをしながらヘルシーな職場作りを目指しましょう。また、メンタルヘルス面談も継続して実施します。

【職場環境に助け合う和やかな空気と雰囲気を与える効果】

⑤ 外国人介護職員と共に現場の風をより心地よくします！

いよいよモンゴル人介護員が入社します。言葉や文化の壁は勿論ある中で、和やかな空気が流れることが期待されます。教える立場や教わる立場だけでなく、そのフレッシュな姿をマネしながら人間力を磨きあいましょう。

【異文化とその人柄に触れながら穏やかさの相乗効果】

※ 以上5点を継続して実施しながら、一歩一歩進んで参ります。

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 … 『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

3つの基本姿勢

- ① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。
- ② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。
心の中に余裕を持つ基本。[他のお年寄りにも声掛けを忘れない事]
- ③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適度に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上質なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合わせる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これが程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念をもって続けていけば、その人のものに成るとされています。
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。

(2) 会議・委員会体系図

別表15

